

佐用町昆虫館 10 年間の活動報告

八木 剛¹⁾

はじめに

佐用町昆虫館は、兵庫県佐用郡佐用町船越に位置する、敷地面積 942 m²、延べ床面積 165 m²の小規模な施設である。1971 年（昭和 46 年）に開館した兵庫県千種川グリーンライン昆虫館（兵庫県昆虫館）は 2008 年（平成 20 年）3 月にその幕を下ろし、2009 年（平成 21 年）4 月、あらたに佐用町昆虫館として再出発した（写真 1、2）。同時に、昆虫研究者や愛好者らが設立した NPO 法人こどもとむしの会が指定管理者として昆虫館を管理運営し、4 月から 10 月までの土・日・祝日のみの開館、

ボランティアによる館運営というチャレンジが始まった。

開館直後の 2009 年（平成 21 年）8 月、台風による水害で休館を余儀なくされたが、復旧、復興には全国各地からの支援をいただき、多くの会員らが尽力した（これに関しては、2009 佐用町昆虫館復興支援ネットワーク、2010 にまとめられているため、ここでは触れない）。

2009 年度から 2018 年度（平成 30 年度）までの 10 年間で、佐用町昆虫館の来館者は、全国 42 の都道府県、300 以上を越える市町村から 40,000 人を越え、加えてアウトリーチやイベントへの参加者も 4,600 人ほど



写真 1 佐用町昆虫館開館時のテープカットイベント（2009 年 4 月 4 日）



写真 2 佐用町昆虫館開館式典（2009 年 4 月 4 日）

表 1 佐用町昆虫館 総利用者数の推移

2009 年度は水害のため、2018 年度は改修工事のため、開館日数が少なかった。休館時利用は、主に保育所、小学校の団体利用。セミナーは、昆虫館での講座やイベント。アウトリーチは、いどうこんちゅうかん、小学校での出前授業、町外イベントへの出展など。2012 年以後毎年出展している「佐用町南光ひまわり祭」での利用者は計数困難なため 300 人とした。2018 年度の「ミュージアムキッズ！全国フェア」の推定利用者は 1,475 人であったが、ここには含まない。

		年度										
		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
開館	開館日数	41	70	69	79	71	67	72	76	70	55	670
	記帳者数	1,986	4,388	3,519	4,561	3,669	3,477	4,027	4,584	4,179	3,715	38,105
休館時利用	件数	6	8	18	5	3	4	10	3	3	8	68
	人数	211	255	408	107	93	108	415	68	71	191	1,927
セミナー	件数	26	11	10	9	5	5	3	5			74
	人数	434	187	176	189	172	137	137	126			1,558
アウトリーチ	件数	9	2		1	1	1	2	1	5	6	28
	人数	321	141		300	300	300	400	300	498	478	3,038
総利用者数		2,952	4,971	4,103	5,157	4,234	4,022	4,979	5,078	4,748	4,384	44,628

¹⁾ Tsuyoshi YAGI 兵庫県立人と自然の博物館

あった。たくさんの利用者に喜んでいただき、十分とはいえないかもしれないが、地域の魅力向上へも、貢献できたと思う。また、これらの活動が評価され、2015年（平成27年）10月には、NPO法人こどもとむしの会が、公益財団法人井植記念会の第39回井植文化賞（地域活動部門）を受賞した。

この報告では、佐用町昆虫館が開館以後の10年間、どのようなことを、どのような人に対して、どれくらい提供してきたのか、具体的な数字とともに、振り返ってみることにする。兵庫県昆虫館の廃止に至る経緯や、昆虫館の管理運営以外のNPO法人こどもとむしの会の活動は、この間の佐用町昆虫館の活動と密接に関連するが、これらについては、別の機会に譲りたい。

10年間で、来館者 40,000人以上

ミュージアムの利用者は、来館して展示や施設を観覧する入館者、館で行われる講座やイベントへの参加者、さらに学校や他施設などで行われるアウトリーチ活動への参加者等で構成される。一般に、ミュージアムの活動の指標としては、これらを合わせた総利用者数として把握され、佐用町昆虫館では10年間で44,628人であった（表1）。そのうち、開館日（臨時開館を含む）の来館者と、休館時利用者（平日の貸切開館等）を合わせると、40,053人であった。

開館日数 1 / 4 で、入館者数は 7 割以上

兵庫県昆虫館と佐用町昆虫館の大きな違いは、開館形態である。4月から10月の間の土・日・祝日だけの開館という形で、どれくらいの利用者があったのだろうか。開館時間も、兵庫県昆虫館では9時から16時であったが、佐用町昆虫館では10時から16時で、1時間の短縮がされている。

図1に、兵庫県昆虫館と佐用町昆虫館の入館者数の推移を示した。入館者数の把握方法にはいくつかの方法があるが、佐用町昆虫館では、館の入り口に記帳用紙を置き、そこへの記帳者数として、把握した。これは兵庫県昆虫館がそうしていたからであって、当時との比較のため、記帳台の場所も含め、同様の把握方法とした。ただし、2009年度（平成21年度）は自由帳への記載、2010年度（平成22年度）からは表形式として年齢層別に人数を記入していただくようにした。記帳をされない来館者もあるため、実際の来館者はこれよりもかなり多い。とくに、夏期などの繁忙期には記帳シートのページ送りがされていないこともあった。なお、2015年度は10月分、2016年度は8月以降の記帳原簿が欠落しており、各月の記帳者数は報告されているが、個々の利用者の年齢層や居住地情報は欠測となっている。

兵庫県昆虫館の最盛期は、年間2万人近くの記帳者があり、2001年度までは年間1万人以上であったが、佐用町の管理運営となった2002年度に大きく落ち込んでいた（佐用町の管理運営となった時点で、来館者の集計方法が変更されたのかもしれない）。兵庫県昆虫館最終年となる2007年度（平成19年度）は、308日の開館で、記帳者数は5,586人で過去最少となっていた。

2008年3月の兵庫県昆虫館廃止後1年を経た、佐用町昆虫館初年度の2009年度（平成21年度）は、水害のため8月中旬以降は休館となり、41日の開館で、記帳者数は1,986人であった。正常開館となった2010年度（平成22年度）は、70日の開館で記帳者数は4,388人で、以後4,000人前後で推移している。佐用町昆虫館の開館日数は年間70日前後で、兵庫県昆虫館時代の1/4弱である。兵庫県昆虫館最盛期に比べるとかなり少ないが、開館最終年に比べると7割以上の来館者を確保できているといえる。

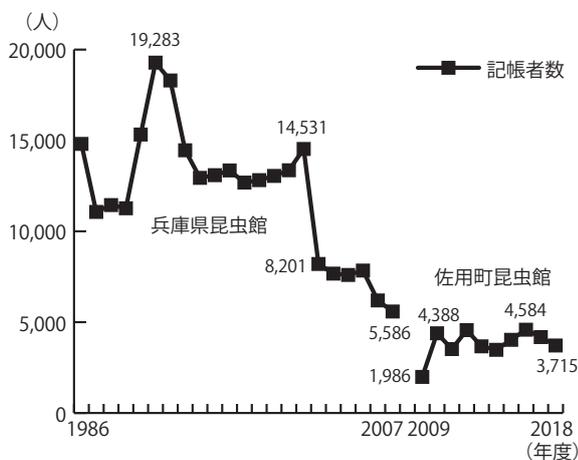


図1 兵庫県昆虫館と佐用町昆虫館における年間記帳者数
入館者数は館入口での記帳者数として把握されている。兵庫県昆虫館の年間開館日数は300日強、佐用町昆虫館は2009年と2018年をのぞき年間70日前後の開館。

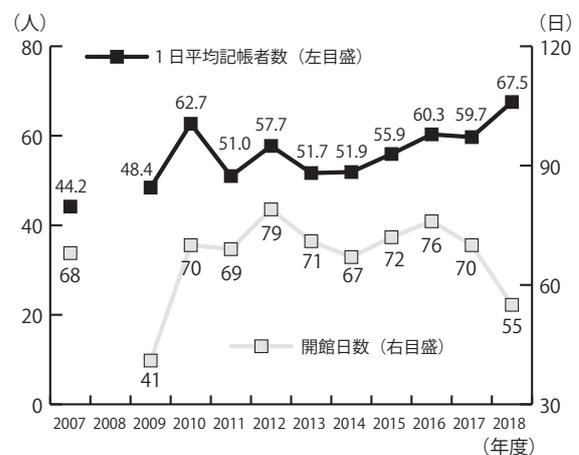


図2 佐用町昆虫館における開館日の1日平均記帳者数
2007年度は兵庫県昆虫館の4月から10月の土・日・祝日のデータ。2009年度は水害のため8月中旬以降休館。2018年度は改修工事のため6月から7月にかけて臨時休館。

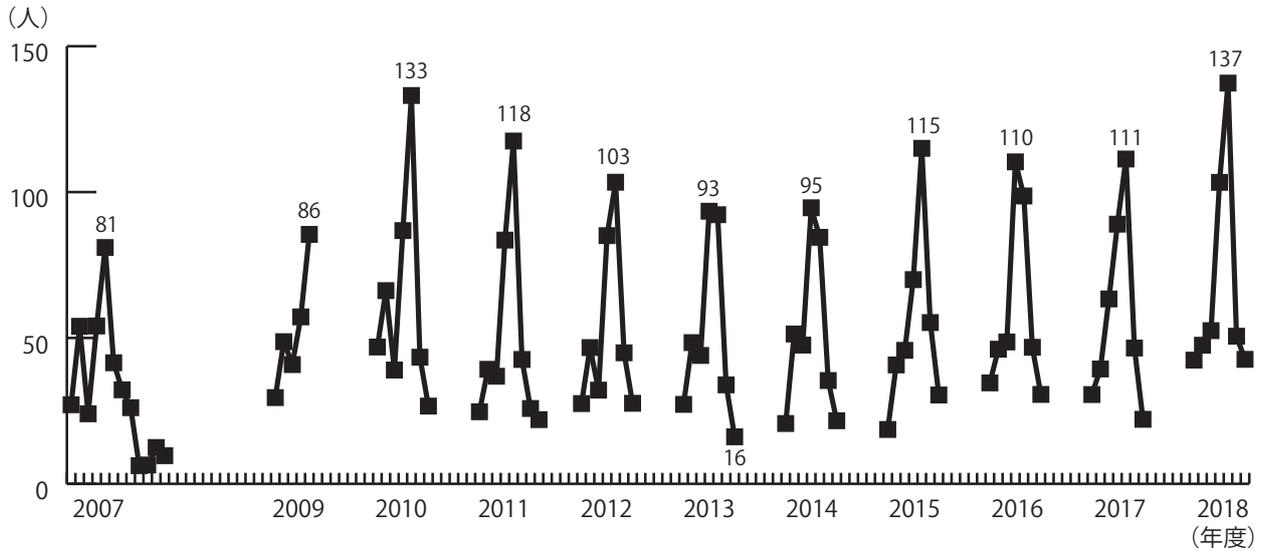


図3 佐用町昆虫館における月ごとの1日平均記帳者数
2013年、2014年度は7月が、その他は8月がもっとも多く、繁閑差が大きい。左端（2007年度）は兵庫県昆虫館。

開館日の賑わいは、徐々に戻ってきた

図2は、開館日における1日の平均記帳者数の推移である。

兵庫県昆虫館最終年の4月から10月の土・日・祝日、つまり佐用町昆虫館の開館と同じ期間の記帳者数は、1日平均44.2人であった。佐用町昆虫館開館初年度の2009年度は1日平均48.4人であったが、徐々に増加傾向となっている。

開館日数は少なくなったものの、開館日における賑わいは、10年間で少しずつ回復しているといえるだろう。

圧倒的に夏季の利用者が多い

月ごとの1日平均来館者の動向を、図3に示した。

これは、兵庫県昆虫館時代もほぼ同様の傾向で、多くの年で8月が最多、7月がそれに比肩している。昆虫の種数が多いのは必ずしも盛夏ではないが、一般の利用

者にとっては、昆虫＝夏のイメージが強いのであろう。このため、繁閑差が大きく、2010年では8月の1日平均記帳者数が133人であったのに対し、10月では27人であった。その差は106人、約5倍の開きがあった。もっとも、兵庫県昆虫館時代は、冬季も開館していたため、最多の8月（81人）と最少の12月（6.2人）の間には約13倍の開きがあった。当時と比較すれば、季節開館と土日祝日開館を組み合わせることにより、繁閑差は縮小している。

土曜日より日曜日の来館が多い

図4は、2017年度を例にした、土曜日と日・祝日の来館者数の比較である。

7、8月を除けば、日曜・祝日は土曜日の2倍程度の来館者がある。日曜日に来館が多いのは、近隣の南光自然観察村（長林キャンプ場）の宿泊利用者が帰りに立ち寄り例が貢献していると思われ、開館スタッフによると、日曜日は10時の開館を待ちわびる姿も散見されるといふ。昆虫館の存在が、近隣施設の魅力向上へ貢献しているともいえるだろう。

夏休みには当該施設は平日も宿泊者が多く、また当該施設利用者に限らず、平日休館を知らない方が昆虫館を訪問されることも少なくない。利用者のニーズを考慮すれば、夏休みの平日開館も検討の余地があるが、ボランティアで運営するスタッフは、夏季には他所での活動も多くなるため、現状の体勢ではスタッフの確保が困難である。そのような中であるが、2012年度からは8月13日から15日を中心としたお盆の期間は臨時開館を続け、佐用町民の里帰り利用にも対応している。

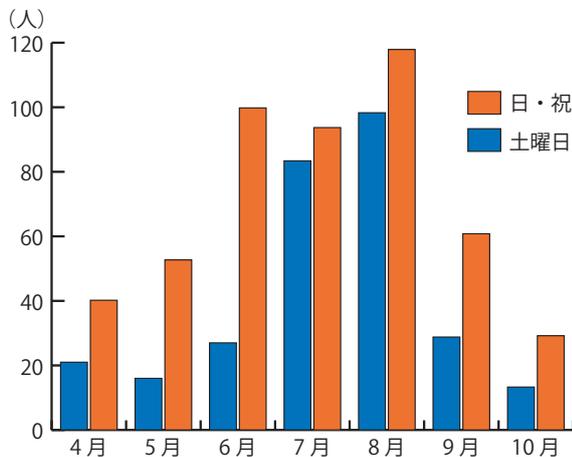


図4 2017年度における土曜日と日・祝日の1日平均記帳者数
夏季は拮抗しているが、他の季節は、日・祝日の利用者が多い。

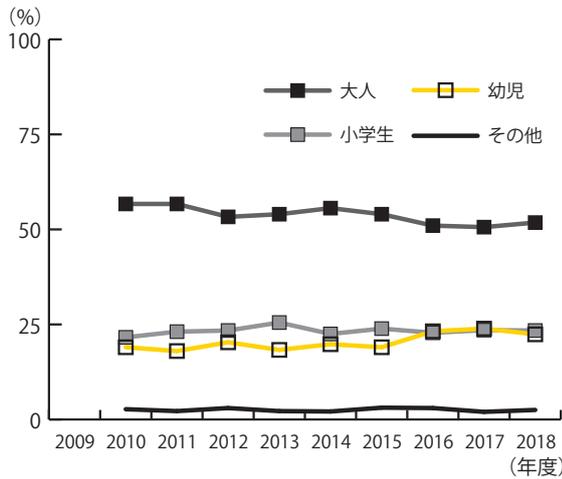


図5 佐用町昆虫館利用者の年齢層
 記帳者数における割合。子どもの割合、また幼児の割合が増えつつあるかもしれない。2009年度は、年齢層の情報は取得できなかった。

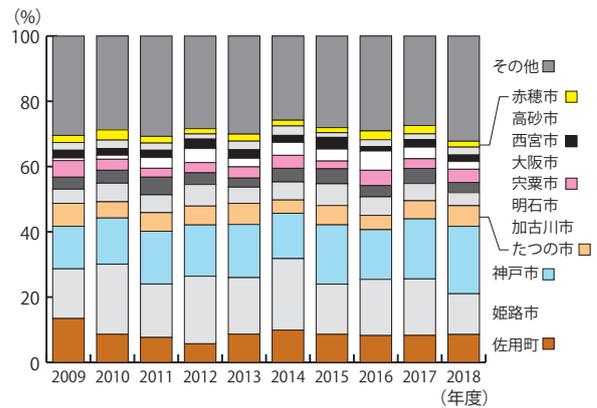


図6 佐用町昆虫館来館者の居住地
 館入口での記帳による。佐用町居住者の割合は、開館初年の2009年度は13.4%で姫路市について多かったが、以後は第3位。広範囲から来館者があり、近年は神戸市からが最多となっている。

小さな子どもたちと家族が中心

図5に、来館者の年齢層を示した。

佐用町昆虫館は、「こどもとむしの秘密基地」を合言葉に、体験を重視する新しいスタイルで開館した。年齢層は、大人がほぼ半数、残りの1/4ずつを小学生と幼児がほぼ同数で占め、その他はごくわずかであった。近年は大人の割合がわずかに低下しているようで、小さな子どもたち主体の施設であることが定着し、大人の個人利用者が減っているのかもしれない。2015年度までは

小学生が幼児より2.6～7.1ポイント多かったが、以後はほぼ同数となっており、さらに低年齢化が進んでいるように見える。その他、中学生は全体の1.3～2.3%、高校生、大学生はすべての年で1%未満であった。

市町別では佐用町が3番目、全国各地からの里帰り利用も

佐用町昆虫館の来館者を市区町村別に見ると、10年間で300を超える自治体からの来館があり、最多は姫路市の6,255人(17.4%)、次に神戸市の5,798人(16.1%)、三番目が地元佐用町の3,428人(9.5%)であった(図6)。自治体の人口を考えると、佐用町民の利用は決して少なくないと考えている。

来館者は、海外からも16カ国・地域(表2)、国内は北海道から沖縄まで42の都道府県に及ぶ。海外からの来訪者には、神戸大学竹田真木生教授(当時)のもとで学ぶ留学生も含まれている。都道府県別では、兵庫県が80.9%(29,990人)で、大阪府10.9%(4,048人)、岡山県2.6%(962人)、京都府1.2%(459人)、以下は1%未満で、鳥取県、奈良県、東京都、神奈川県、広島

表3 佐用町昆虫館の来館者(海外)
 10年間の記帳者数合計。

国等	記帳者数
イギリス	5
sweden	3
UAE	3
シンガポール	3
ミャンマー	3
Canada	2
アメリカ合衆国	2
中国	2
Kenya	1
Myanmar	1
セルビア	1
チェコ	1
バングラデシュ	1
フランス	1
モーリタニア	1
台湾	1

表3 佐用町昆虫館の来館者(都道府県別)
 10年間の記帳者数合計。北海道の0人は記帳されていたものの、人数の記載がなかった。

都道府県	記帳者数
兵庫県	29,990
大阪府	4,048
岡山県	962
京都府	459
鳥取県	324
奈良県	180
東京都	152
神奈川県	128
広島県	120
愛知県	85
千葉県	57
滋賀県	51
和歌山県	45
埼玉県	44
福島県	44
三重県	38
岐阜県	37
香川県	31
愛媛県	28
徳島県	25
福井県	22
静岡県	21
福岡県	20
茨城県	19
新潟県	19
島根県	19
沖縄県	18
石川県	16
高知県	12
山口県	8
群馬県	7
青森県	5
佐賀県	4
長崎県	3
栃木県	2
富山県	2
宮崎県	1
宮城県	1
山形県	1
長野県	1
大分県	1
北海道	0

表4 佐用町昆虫館の来館者(市区町村別)
10年間の記帳者数合計。北海道の0人は記帳されていたものの、人数の記載がなかった。

都道府県	市町	記帳者数	都道府県	市町	記帳者数	都道府県	市町	記帳者数	都道府県	市町	記帳者数	都道府県	市町	記帳者数
兵庫県	姫路市	6,265	大阪府	貝塚市	37	大阪府	泉佐野市	10	大阪府	柏原市	5	千葉県	千葉市	3
兵庫県	神戸市	5,798	兵庫県	篠山市	35	岐阜県	本巣市	10	東京都	町田市	5	東京都	国分寺市	3
兵庫県	佐用町	3,428	兵庫県	市川町	34	千葉県	船橋市	10	石川県	白山市	5	埼玉県	ふじみ町	3
兵庫県	たつの市	1,998	大阪府	門真市	31	岡山県	久米南町	10	山口県	下松市	5	香川県	丸亀市	3
兵庫県	加古川市	1,948	兵庫県	多可町	28	神奈川県	相模原市	10	青森県	弘前市	5	埼玉県	新座市	3
兵庫県	明石市	1,462	岡山県	瀬戸内市	27	京都府	木津川市	9	東京都	世田谷区	5	静岡県	三島市	3
兵庫県	宍粟市	1,305	大阪府	四条畷市	26	奈良県	香芝市	9	岡山県	鏡野町	4	岡山県	金央町	3
大阪府	大阪市	1,126	兵庫県	丹波市	25	大阪府	大阪狭山市	9	鳥取県	北栄町	4	神奈川県	座間市	3
兵庫県	西宮市	832	広島県	福山市	24	千葉県	我孫子市	9	大阪府	河南町	4	東京都	小金井市	3
兵庫県	高砂市	769	大阪府	交野市	24	兵庫県	神崎郡	9	鳥取県	白兔市	4	東京都	葛飾区	3
兵庫県	赤穂市	759	京都府	福知山市	24	奈良県	橿原市	9	大阪府	泉南郡	4	徳島県	鳴門市	2
兵庫県	太子町	586	鳥取県	八頭町	24	岡山県	和気町	9	京都府	乙訓部	4	奈良県	上牧町	2
兵庫県	相生市	555	東京都	大田区	21	愛媛県	新居浜市	9	徳島県	丈六町	4	鳥取県	気高町	2
大阪府	吹田市	492	兵庫県	神河町	21	大阪府	島本町	9	岡山県	勝田町	4	滋賀県	近江市	2
兵庫県	尼崎市	463	大阪府	泉大津市	21	京都府	与謝野町	8	茨城県	大子町	4	富山県	小矢部市	2
兵庫県	三田市	339	京都府	向日市	20	東京都	練馬区	8	滋賀県	栗東市	4	広島県	竹原市	2
岡山県	岡山市	330	岡山県	西粟倉村	20	東京都	狛江市	8	岡山県	瀬戸内村	4	兵庫県	安富町	2
兵庫県	宝塚市	320	京都府	亀岡市	20	和歌山県	紀ノ川市	8	岡山県	東粟倉村	4	愛知県	武豊町	2
大阪府	豊中市	318	大阪府	河内長野市	20	静岡県	浜松市	8	イギリス	London市	4	長崎県	佐世保市	2
兵庫県	播磨町	282	三重県	四日市市	20	香川県	まんのう町	8	三重県	桑名市	4	栃木県	宇都宮市	2
大阪府	堺市	276	京都府	宇治市	20	鳥取県	用瀬町	8	静岡県	菊川市	4	島根県	浜田市	2
兵庫県	三木市	275	香川県	高松市	20	茨城県	つくば市	8	鳥取県	琴浦町	4	東京都	港区	2
兵庫県	上郡町	260	大阪府	羽曳野市	19	神奈川県	藤沢市	8	岡山県	和気	4	静岡県	磐田市	2
兵庫県	伊丹市	244	大阪府	高石市	19	埼玉県	和光市	8	兵庫県	淡路市	4	愛媛県	西条市	2
兵庫県	加西市	238	和歌山県	和歌山市	18	愛知県	豊田市	7	鳥取県	若桜町	4	高知県	土佐市	2
京都府	京都市	238	兵庫県	南あわじ市	18	群馬県	安中市	7	愛知県	刈谷市	4	愛知県	あま市	2
兵庫県	芦屋市	228	徳島県	徳島市	18	千葉県	市原市	7	岐阜県	中津川市	4	滋賀県	野洲市	2
鳥取県	鳥取市	203	鳥取県	岩美町	18	奈良県	大和郡山市	7	奈良県	田原本町	4	新潟県	魚沼市	2
兵庫県	加東市	178	岡山県	総社市	17	福岡県	福岡市	7	愛知県	安城市	4	埼玉県	熊谷市	2
大阪府	東大阪市	164	愛媛県	松山市	17	愛知県	春日井市	7	岡山県	新見市	4	岡山県	井原市	2
兵庫県	小野市	153	岡山県	玉野市	17	鳥取県	倉吉市	7	三重県	二見町	4	Canada	Vancouver	2
大阪府	高槻市	152	島根県	松江市	16	東京都	足立区	7	岡山県	茶屋町	4	岡山県	美咲町	1
大阪府	茨木市	150	兵庫県	養父市	16	東京都	府中市	6	鳥取県	湯梨浜町	4	岡山県	久米市	1
岡山県	津山市	144	滋賀県	大津市	15	福岡県	北九州市	6	愛知県	瀬戸市	4	宮崎県	宮崎市	1
岡山県	美作市	120	東京都	江東区	15	埼玉県	上尾市	6	広島県	黒瀬町	4	埼玉県	川口市	1
大阪府	枚方市	117	奈良県	生駒市	15	京都府	日向市	6	高知県	香南市	4	埼玉県	春日部市	1
大阪府	寝屋川市	110	兵庫県	猪名川町	14	岡山県	赤磐市	6	鳥取県	下田町	4	東京都	渋谷区	1
岡山県	倉敷市	110	東京都	江戸川区	14	千葉県	木更津市	6	東京都	文京区	4	広島県	東広島市	1
大阪府	守口市	107	岡山県	勝央町	14	奈良県	桜井市	6	鳥取県	鳥取県	4	東京都	台東区	1
兵庫県	稲美町	102	兵庫県	洲本市	14	兵庫県	多可郡	6	奈良県	平群町	4	埼玉県	草加市	1
兵庫県	加古郡	91	滋賀県	草津市	14	東京都	豊島区	6	大阪府	熊取町	4	アメリカ	ノーマル市	1
奈良県	奈良市	87	大阪府	富田林市	13	埼玉県	朝霞市	6	鳥取県	米子市	4	京都府	木津川町	1
大阪府	和泉市	84	千葉県	松戸市	13	高知県	高知市	6	静岡県	静岡市	4	大分県	大分市	1
大阪府	八尾市	81	新潟県	新潟市	13	広島県	加古町	6	兵庫県	香美町	4	長野県	松本市	1
兵庫県	福崎町	79	沖縄県	沖縄市	13	三重県	東真町	6	京都府	峰山町	4	徳島県	名西郡	1
大阪府	大東市	74	奈良県	斑鳩町	12	岡山県	日生町	6	沖縄県	那覇市	4	千葉県	柏市	1
広島県	広島市	74	福井県	福井市	12	兵庫県	太子町	6	広島県	呉市	4	滋賀県	長浜市	1
兵庫県	西脇市	74	京都府	城陽市	12	埼玉県	白岡町	6	東京都	中央区	4	三重県	津市	1
兵庫県	川西市	71	京都府	長岡京市	12	兵庫県	神崎町	6	和歌山県	田辺市	3	東京都	青梅市	1
大阪府	池田市	60	京都府	八幡市	12	愛知県	岡崎市	6	大阪府	泉南市	3	岐阜県	養老町	1
大阪府	岸和田市	58	京都府	京田辺市	12	愛知県	常滑市	5	茨城県	東海村	3	千葉県	茂原市	1
岡山県	備前市	54	石川県	金沢市	11	埼玉県	越谷市	5	東京都	太田市	3	岐阜県	岐阜町	1
神奈川県	横浜市	51	岐阜県	大垣市	11	和歌山県	貴志川町	5	茨城県	ひたちなか市	3	島根県	奥出雲町	1
大阪府	摂津市	46	兵庫県	新温泉町	11	福井県	若狭町	5	千葉県	四街道市	3	埼玉県	北本市	1
兵庫県	朝来市	45	兵庫県	揖保川町	11	奈良県	王寺町	5	東京都	目黒区	3	宮城県	仙台市	1
愛知県	名古屋	44	大阪府	阪南市	11	岡山県	奈義町	5	sweden	stockholm	3	東京都	墨田区	1
兵庫県	相生市・赤穂市	40	京都府	舞鶴市	10	京都府	宮津市	5	佐賀県	伊万里市	3	和歌山県	御坊市	1
大阪府	箕面市	39	鳥取県	智頭町	10	広島県	廿日市市	5	山口県	宇部市	3	山形県	鶴岡市	1
神奈川県	川崎市	39	兵庫県	揖保郡	10	大阪府	松原町	5	岡山県	津山町	3	長崎県	長崎市	1
大阪府	松原市	39	岐阜県	岐阜市	10	鳥取県	大山町	5	岡山県	英田郡	3	北海道	札幌市	0
兵庫県	豊岡市	38	大阪府	藤井寺市	10	和歌山県	紀の川市	5	UAE	アブダビ	3			

表5 佐用町昆虫館における休館時貸切利用団体
平日ないし開館期間外の利用。スタッフが可能な場合のみ、個別に対応した。10年間の実績。

種別	市町	施設・団体名	利用回数	
幼稚園・保育園	佐用町	佐用町立三河保育園	4	
		佐用町立中安保育園	2	
		佐用町立徳久保育園	1	
		佐用町立三日月保育園	1	
		佐用町立上月保育園	1	
		佐用町立南光保育園	1	
	宍粟市	宍粟市立千種幼稚園	2	
		宍粟市立菅野幼稚園	1	
	たつの市	たつの市立揖西中こども園	1	
	神戸市	光の丘幼稚園	1	
吹田市	こぼと保育園・さくらんぼ保育園	7		
小学校	佐用町	佐用町立三河小学校	5	
		佐用町立佐用小学校	2	
		佐用町立久崎小学校	2	
		佐用町立南光小学校	2	
		佐用町立三日月小学校	1	
		佐用町立利神小学校	1	
	宍粟市	宍粟市立河東小学校	1	
		宍粟市立波賀小学校	1	
		地域団体	佐用町高年クラブ	1
		佐用町文化協会上月支部会員	1	



写真3 佐用町昆虫館における休館時貸切利用の例
佐用町立三河小学校 2018年10月。

以上のように、昆虫館の利用者の姿としては、幼児や小学生を含む家族連れが姫路や神戸など1～2時間の行程での遠足利用が最も多く、ついで、里帰り時を含む佐用町住民など近隣在住者の利用、さらに、小学校、保育園による団体利用が挙げられる。

県と続く(表3)。市区町村別の全リストは表4に示した。

お盆やゴールデンウィークなどの連休時には、佐用町や近隣市町が故郷となっている方々の里帰り時の利用者があり、毎年楽しみにしているという声をきく。利用者が全国に及んでいることは、佐用町出身者が全国へ輩出されていることの裏返しでもある。里帰り時の昆虫館での思い出が、佐用町出身者のふるさと感の醸成に貢献しているとするれば、喜ばしいことではなからうか。

地元の幼稚園や学校のため、休館時に貸切対応

表1の「休館時利用」の中心は、小学校や保育園による団体利用である(写真3)。

佐用町昆虫館は休日開館のため、授業や保育など課程内での平日利用を希望する幼稚園、保育園、学校等に対しては、スタッフの対応が可能な限り、特別に館を開け、貸切利用として個別に対応してきた。これまでに、幼稚園・保育所が11園22回、小学校が8校15回の利用があった。毎年夏にお泊まり保育のため南光自然観察村を利用していた大阪府吹田市の保育園を除けば、地元の佐用町立三河保育園、佐用町立三河小学校の利用が最も多かった。小学校のほとんどは3年生の環境体験学習の一環であった。また、佐用町の地域団体からの要望にも2件対応した(表5)。

その他の休館時利用としては、正会員の所属する外部団体によるセミナー等での利用で、兵庫県立人と自然の博物館、明石市の団体による福島支援イベント、NPO法人シニア自然大学校の研修などの利用があった。

特徴あるセミナー・イベント

以上、総利用者数の多くを占める、いわゆる来館者数について、傾向や内容を見てきた。ミュージアムには、講座の受講やイベントの参加など、展示や施設の観覧とは少し異なる意図を持って来訪する利用者もいる。また、館外で行うアウトリーチの参加者もある。これらの動向を見ていく。

図7に、昆虫館内や付近で行われたセミナーやイベントの参加者数、アウトリーチ活動での参加者数を示した。

開館初年の2009年度、セミナー・イベントの参加者数が最も多く、しだいに減少して、ここ2年間では行われていない。初期の頃には、絵画教室、標本作り、チョコ

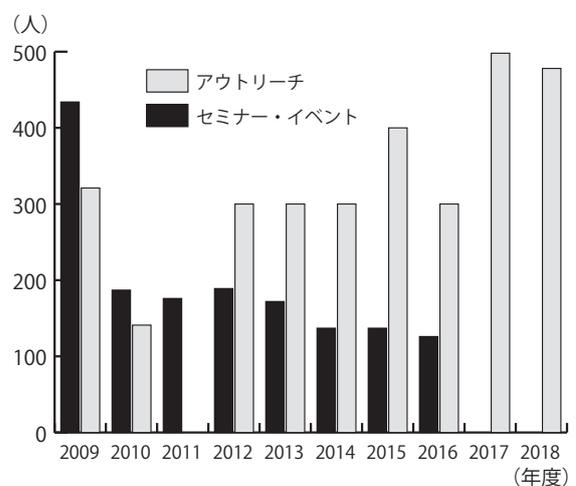


図7 佐用町昆虫館におけるセミナー・イベントの参加者数、アウトリーチ活動での参加者数の動向。2012年度以降の「南光ひまわり祭」での参加者は300人として計上。

ウを探そう、工作教室などの小規模なイベントを頻繁に開催し、告知していたが、2011年以後、ほとんどなくなった。あえてイベントの設定をせず、一日館長やスタッフとなった会員が、来館者の興味や混雑状況を勘案し、即興で小イベントを実施するようになったためである。佐用町昆虫館の場合、「開館していること自体がイベント」であるともいえるだろう。

これまでに行われた特徴的なセミナーやイベントについて、いくつか紹介しておく。

ミツバチの観察

ミツバチの専門家である大谷 剛氏が先導し、2009年の開館当初より、昆虫館敷地内でセイヨウミツバチを飼育し、巣箱のメンテナンスそのものを観察イベントとして、巣箱の開封やハチミツ搾りなどを行い、好評であった(写真4)。しかし、佐用町内にツキノワグマが出没したとの情報があったことから、ミツバチの巣がクマを誘引することが懸念されるようになった。善後策の検討を始めていた矢先、水害が起り、ミツバチは兵庫県立三木山森林公園に移設された。以後、ミツバチの飼育観察は行われなかった。

子ども昆虫道場

金子留美子氏が世話役となって、2010年度から2016年度にかけて、「佐用町昆虫館子ども昆虫道場」が7期にわたって開講された。

対象は小学3年生以上、定員は15人、5月～10月の間に5回開講し、10時半からお昼を挟んで14時までが基本プランであった(図8)。内藤親彦理事長を「道場長」とし、大学教授をはじめとしたNPO法人子どもとむしの会の多彩な専門家が講師を務め、修了証も発行された。受講料は5回セットで1,500円と破格であった。当初は佐用町の小学生を対象としていたが、専門的な内容が敬遠されたのか、あまり参加者が多くなかった。町内に限らず広く呼びかけたところ、多くの参加者が集ま



写真4 ミツバチの観察
巣箱を開封し、中を観察しているところ。2009年5月3日

り人気が高まっていった。(写真5)

2012年度、2013年度は、(公財)安藤スポーツ・食文化振興財団の自然体験活動支援事業「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の助成金を獲得して実施された。

電子顕微鏡がやってくる

神戸大学竹田真木生教授(当時)の声かけにより、2012年8月、株式会社日立ハイテクノロジーズの寺田大平氏が、卓上サイズの走査型電子顕微鏡を昆虫館に持ち込んでくださり、電子顕微鏡の世界を体験できる機会を提供くださった。寺田氏は、以後も2014年を除く毎年、夏季に同様の体験機会を提供くださっている。遠路の運搬も含め、これに関する費用はいっさい請求いただいておらず、感謝するしかない。(写真6)

佐用町昆虫館 子ども昆虫道場
めざせ! 未来の昆虫博士

子どもたちに昆虫を実際に手に取ってもらい、見て、触って、匂いを嗅いで、生き物を触れ合ってもらえる場として「子ども昆虫道場」を開催します。
お弁当を持って10時半、佐用町昆虫館集合。虫のお話を聞いた後、昆虫採集をして、どんな昆虫が採れたか昆虫調べをします。
開講中の月1回。当会員が講師を務め、毎月テーマを決めて、チョウやトンボやカブトムシやセミなどの観察をします。修了証には修了証と子ども1日観察資格が発与されます。

募集要項

主催	佐用町昆虫館 (NPO 子どもとむしの会)	申込方法	郵便番号・住所・氏名・学年・保護者氏名・電話番号・小学生名・こども昆虫道場参加費を明記した封筒に貼付
日時	平成25年5月～10月(毎月1回(8月はお休み)10時半～14時(お弁当持参(7月のみ15時～20時))	講師	昆虫館員・昆虫館員(昆虫館員)
場所	佐用町昆虫館	対象	昆虫に興味のある小学3年生以上 現地集合できる方
定員	15名	定員	15名
参加費	1人1,500円・5回セット	申込締切日	4月13日(土)21時28分29秒

申込締切5月11日(土)16時

申込先: 佐用町昆虫館(〒679-0001 兵庫県佐用町) 電話: 079-460-0258 (受付: 金子)

開催日とプログラム

5月26日(日)	6月23日(日)	7月6日(土)	9月8日(日)	10月20日(日)
10:30-14:30	10:30-14:30	15:00-20:00	10:30-14:30	10:30-15:00
講師: 金子留美子	講師: トンボの会	講師: 赤松の会	講師: セミの会	講師: バッタの会
昆虫採集と観察作り(法にアユワ)	昆虫採集と観察作り(法にアユワ)	昆虫採集と観察作り(法にアユワ)	昆虫採集と観察作り(法にアユワ)	昆虫採集と観察作り(法にアユワ)
講師: 金子留美子	講師: トンボの会	講師: 赤松の会	講師: セミの会	講師: バッタの会
講師: 金子留美子	講師: トンボの会	講師: 赤松の会	講師: セミの会	講師: バッタの会
講師: 金子留美子	講師: トンボの会	講師: 赤松の会	講師: セミの会	講師: バッタの会

子どもとむしの会 佐用町昆虫館

図8 佐用町昆虫館子ども昆虫道場のチラシ第4期(2013年)の募集チラシ。



写真5 佐用町昆虫館子ども昆虫道場の一場面
保護者は少し距離を置いて、廊下から見学。2016年10月(最終回)。



写真6 佐用町昆虫館に、電子顕微鏡がやってくる
日立ハイテクノロジーズより、走査型電子顕微鏡が持ち込まれ、ミクロの世界を観察。2012年8月。



写真7 佐用町で最初のいどうこんちゅうかん
佐用町立平福保育園、2009年10月22日。



写真8 ちちこ釣り船越大会
昆虫館付近の千種川で行われた。2010年8月22日。



写真9 昆虫館前を舞うヒメボタル
会員限定として行ったホタルの夕べ。2009年7月11日。

ちちこ釣り大会

「ちちこ」は、河川に生息する小魚カワヨシノボリの地方名である。千種川圏域清流づくり委員会主催の「ちちこ釣り大会」は、昔ながらの道具でちちこ釣りをする川遊びイベントで、千種川の数地点で毎年行われていた。横山 正氏の主導で、2010年8月の船越大会は、佐用町昆虫館を管理運営するNPO法人こどもとむしの会との共催として行われた。(写真8)

ホタルの夕べ

千種川にはゲンジボタルが多く見られ、昆虫館前から瑠璃時にかけての参道沿いにはヒメボタルが多数生息する。これらは、昆虫館の眼前あるいは徒歩すぐの場所で観察できることから、八木が主導し、2009年(写真9)、2010年に、昆虫館を夜間に特別開館して、観察機会を設けた。

アウトリーチ活動：館外へも積極的に

昆虫館への距離が遠すぎる人は、関心があっても来館することが困難である。また、近くに住んでいても、それほど昆虫に関心のない住民は、あまり利用しない。

そのため、館の機能を館外で展開するアウトリーチは、来館しにくい利用者、潜在的利用者に対する重要な活動となってくる。

アウトリーチ活動への参加者数の推移は前出の図7に、これまでの訪問先を表6に示した。

佐用町昆虫館のアウトリーチ活動は、2009年度の洪水の後、休館を余儀なくされたことから、佐用町内の幼稚園、保育所、小学校を訪問することで始まった。続く2010年度にもいくつかの小学校を訪問したが、以後、2017年度に復活するまでは、主に、町外での活動が中心であった。「いどうこんちゅうかん」については、本誌、吉岡朋子氏の稿も参照されたい。

2012年度からは、「佐用町南光ひまわり祭」へ毎年出展しており、「ふるさとの虫とあそぼう」と題して生きた昆虫やイモリに触れる体験を提供し、多数の参加者がある。その他、野村智範氏の調整により、ひょうご教育フェスティバルにも2回出展しており、学校の先生方へ佐用町昆虫館の存在や機能を伝えた。

これらのノウハウを結集し、2019年(令和元年)6月1日には、佐用町昆虫館10周年記念「むしむしまつり」を、さよう文化情報センターで開催する予定である。

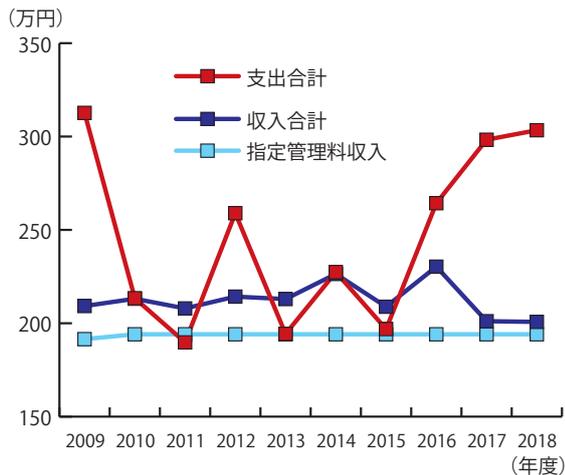


図9 佐用町昆虫館会計 収支の動向
支出の多寡は年によって変化が大きい。詳細は表7参照。

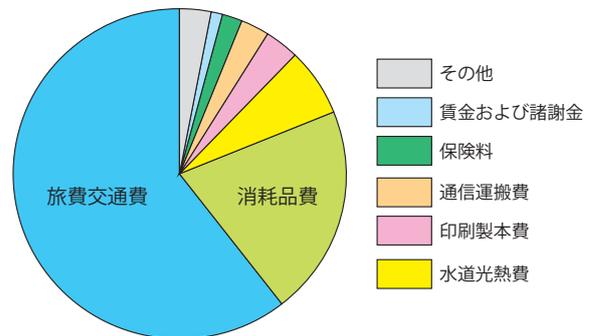


図10 佐用町昆虫館会計の支出における主要科目の割合
10年間の合計値による。各年については、表7参照。

表7 佐用町昆虫館会計収支の変遷
事業年度は、4月1日から3月31日まで。単位：円。

科目	年度										
	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
収入											
指定管理料	1,915,000	1,941,000	1,941,000	1,941,000	1,941,000	1,941,000	1,941,000	1,941,000	1,941,000	1,941,000	1,941,000
雑収入	41,700	59,500	48,600	34,200	8,300	84,500	44,400	250,900	64,100	40,321	
指導料等	100,000	86,100	61,600	20,000	50,000	70,000	95,000	25,000	6,000	26,000	
受取寄付金	10,756		14,336	47,500		143,000		65,000			
受取助成金				100,000	100,000						
受取参加費	24,800	44,700	13,900		30,300	25,500	8,100	21,300			
収入合計	2,092,256	2,131,300	2,079,436	2,142,700	2,129,600	2,264,000	2,088,500	2,303,200	2,011,100	2,007,321	
支出											
旅費交通費	1,683,660	1,268,295	952,730	1,332,190	1,144,530	1,452,760	1,346,979	1,845,654	1,994,636	1,833,263	
消耗品費	1,070,339	517,097	208,635	808,239	340,693	324,791	315,119	376,303	461,098	664,152	
水道光熱費	136,616	188,040	195,566	167,599	129,107	140,663	135,928	149,010	175,491	212,641	
印刷製本費	79,800	18,900	152,250		84,000	194,400	2,797	2,700	183,600	51,408	
通信運搬費	47,475	37,260	79,050	76,981	82,388	77,762	78,431	77,678	83,973	84,174	
保険料	38,000	50,500	54,000	51,100	59,460	53,220	45,500	42,150	34,500	34,500	
賃金・謝金	60,000	20,000	76,800	88,000	45,000						
新聞図書費		20,000	20,000	24,024	20,000	20,000	20,000	63,800	20,600	20,600	
研修費			131,880		26,060			54,046			
修繕費			16,800	33,000			16,200			113,108	
支払手数料	10,820	9,015	4,895	3,313	6,988	5,163	2,844	5,769	6,990	9,893	
諸会費			5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	
交際費		5,000						20,800			
支払寄付金									17,000		
会議費										5,000	
支出合計	3,126,710	2,134,107	1,897,606	2,589,446	1,943,226	2,273,759	1,968,798	2,642,910	2,982,888	3,033,739	
収支差額	-1,034,454	-2,807	181,830	-446,746	186,374	-9,759	119,702	-339,710	-971,788	-1,026,418	

佐用町昆虫館の収支

図9に佐用町昆虫館の収支の動向、図10に主な科目別の支出割合を示した。

昆虫館会計としては、期間を通して赤字基調で、不足分をNPO法人こどもとむしの会の会費や他の事業収入で補う構造となっている。

主な収入は佐用町からの指定管理料で、この10年間、定額が保たれた。その他の収入としては、休館時利用時の指導料等(町内と近隣自治体は無料)、セミナー等の参加費、会員の寄付、缶バッジなどの雑収入で、割合としては多くない。

支出科目としては、旅費交通費が最大で、とくに直

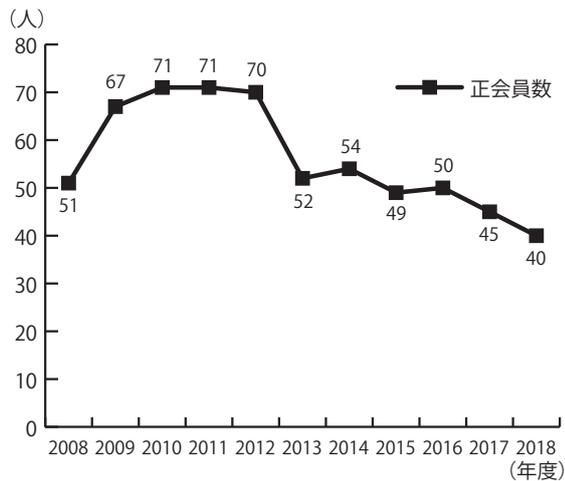


図 11 NPO 法人子どもとむしの会の正会員数の推移
2008 年 9 月に設立された。設立 5 年目に大きく減少し、以後も漸減傾向にある。

近 3 年は額が大きくなっている。スタッフはボランティアであるため、賃金、謝金は、外部の方への支払いであるが、ここ数年は計上していない（法人全体の管理費に含めている）。

佐用町昆虫館会計には計上していないが、2015 年度、井植文化賞の賞金 100 万円の全額をふるさと佐用応援寄付金へ拠出した。そのほか、2012 年度、2014 年度、2016 年度、2017 年度にも、ふるさと佐用応援寄付金を各 50 万円拠出した。

活動を支える会員

最後に、すべての活動を支える「人」について、述べておきたい。

NPO 法人子どもとむしの会は、指定管理者として佐用町昆虫館の管理運営を行なっているが、職員を雇用せず、ボランティアスタッフによって運営されている。スタッフは NPO 法人子どもとむしの会の正会員が中心で、必ず 2 名以上で開館し、繁忙期には 4、5 名のスタッフが必要となることもある。したがって、スタッフをいかに確保するかが、スムーズな運営の鍵となる。これは大きなチャレンジであったが、この方式は、10 年間大きな変更をすることなく維持されてきた。

正会員のすべてが佐用町昆虫館のスタッフとして活動しているわけではないが、参考までに、2008 年設立以後の、NPO 法人子どもとむしの会の正会員数の動向を図 11 に示した。

NPO 法の趣旨により、だれでも正会員として入会できるが、年会費は 10,000 円としている。会費は社団法人の社員として法人を支えるための拠出であり、反対給付を伴うわけではないことから、年間 10,000 円の負担感は必ずしも軽くない。また、ボランティア（志願者）という趣旨から、会費の督促などは積極的にしてこ

なかった。結果として、設立当初は会員数が増加したものの、5 年目を転機に大きく減少し、以後、漸減傾向が続いている。

スタッフがいなくなると昆虫館の運営はできなくなるため、今後何らかの対策を検討する必要があるだろう。しかし、スタッフ自身も楽しい、また来たくなる、そんな昆虫館をスタッフ自身が作り出し、自分で運営するという施設は、ほかにない。花に集まる虫のごとく、昆虫館の空気に引き寄せられる人は、今後も少なくなかろうと、私は思う。

おわりに

事務局を担う者として、活動に伴う数字を把握し、それに基づいた私見も述べてきた。言わずもがなであるが、10 年間昆虫館を運営してきたのは、多数の正会員やスタッフのみなさんである。そして、地元三河地区のみなさんのご理解や、地権者であり応援者でもある大江秀謙住職はじめ瑠璃寺のみなさん、先生亡き後も昆虫館を温かく見守って下っている内海功一先生のご家族の方々、佐用町議会議員の方々、庵途町長をはじめとする佐用町役場はじめ、佐用町のたくさんのご理解、ご協力のおかげで、昆虫館は運営されてきた。これらすべての関係者の方々に、このご報告をさしあげるとともに、忌憚のない評価をいただければ幸いに思う。

文献

2009 佐用町昆虫館復興支援ネットワーク, 2010. 佐用町昆虫館、台風災害と復興の記録 - 平成 21 年 (2009 年) 台風 9 号水害による佐用町昆虫館の被災と復旧、復興に関する記録集 -, 32pp. https://www.konchukan.net/pdf/sayo_revival_2010_s.pdf